

そ う
ず い

きつかけをたいせつに



外島 富子

毎年冬が近づくころになると、私はゆううつになる。それは、雪がどつきり(二メートル内外)積もる地方に勤務しているために、体育の授業でスキーを指導しなければならぬからである。不幸にして、スキーなどあまりやらない時代に育った私は、一度もスキーをはいたことがない。勤務してからも若いころは、スキーをはかないで、過ごしてきた。

ところが最近、近くに村営の南郷スキー場ができ、授業でも何回か練習に行くことになった。全然できない私は冬季間の体育が苦になってしかたがなかった。

ある日、校長先生に、学級のスキー指導をお願いしてみた。ところが校長先生いわく、「先生はこの雪の積もる所で何年教員をやった。今までどうやっ

て指導してきた。人に頼むようでは困る。おれが特訓してやるからついて来い。」と、すさまじい表情で言われ、さつさと学校の裏に出て行かれた。いつもとずいぶん違うがどうしたんだらうと不思議に思いながらついて行つた。やつと着いたかと思うと、「こうして滑るんだ。よく見ていなさい。」と言つて堤防から伊南川の方に苦なしに滑つていかれた。「今度は先生だ」。私は困

つたがどうしようもない。覚悟して滑つた。途中で何回転もしながら必死になつて滑つた。最後のころ滑りすぎたので伊南川へまっしぐら、ザブーン。「ハッ」と気がついた。ああ夢でよかつた……。

それからというものは、私の心はむしろよにかき立てられ、数日間悩んでいるとき、上司や同僚に温かく励ま

れた。それがきつかけで練習に踏み切つた。

リフトに初めて乗るときは、全身がガクガクした。運動神経がにぶいために回を重ねてもさっぱり上達しない。何回か折しそうになったが、他から転動して来られた先生がたの真剣な練習ぶりを見ては、苦しみをこらえて奮起した。このつらい体験は、つまりきつかけを持つ子供の指導にプラスになった。

ある年、全然なにもやらない二年生のA君を担任した。「A君は大きくなつてなになるのかなあ」「ブルの運転手」「ああいね。先生もバイクの免許を取るよ、字を読んだり書いたりするテストが出たよ。よく勉強していい人はみんな合格したんだよ。合格し

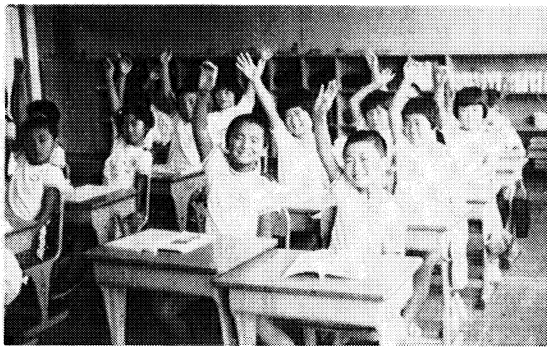
なかつた人は、勉強してくればよかったと言つて、泣きそうな顔をしていたよ」など、話しかけて下校させた。翌朝私は、いつもの調子で教室の方へ行つたら、A君はノートを手にして、しきりに教室から出たり入つたりして私の来るのを待っていた。教室に入つたとたん「ほら、いっぱいやってきた。やつてきた。」と、ニコニコしながらノ

ートを見せしてくれた。見たら自分の名前を大きな字で一ページ書いてあつた。「ほう、これはいたいしたものだ。よくやつてきたね。こうして勉強していけばブルの免許はきつと取れるよ。」と、言いながら大きな花まるをつけてやつた。それから、時々少しずつやつて来るようになり、授業中もわずかなではあるが、やる気を起こしてきた。

この子供は、性格的にすなおであつたこともあるが、ほんのちよつとしたきつかけでよい方向に向いてくれたうれしかった。ほかに、算数や体育嫌いな子供も、ちよつとしたきつかけから興味を持つようになった事例もあつた。

このように、不得意とする教科を持つ子供が意外に多い。人間大人でも子供でもちよつとしたきつかけが、よい方向づけになる場合が非常に多いと思う。私も夢の中での特訓や周囲の励ましがなかつたなら、終生スキーをはくことはなかつたであろう。このことは今後の指導の面でもたいせつにしたいと考えている。

(南郷村立南郷第二小学校教諭)



やる気を起こしてきたA君